

小学校第2学年 造形遊びをする活動と、相互に関連する鑑賞の活動

【学習の方向性】	○材料を基に造形的な活動を思い付き、思いのままにつくる。 ○活動したことや表現したものの面白さや楽しさなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。 【A 表現 (1) ア (2) ア B 鑑賞 (1) ア】(共通事項)
【題材名】	<h2 style="text-align: center;">つないで つるして</h2> <p style="text-align: center;">～細長い紙を どんどんつなげていくと どんな形ができるかな?～</p>
【題材目標】	○細い紙をつないだりつるしたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付き、新聞紙に十分に慣れるとともに、並べたりつないだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してつくるようにする。 ○細い紙をつないだりつるしたりしてできた形や色などを基に自分のイメージをもちながら、新聞紙の形などを基に造形的な活動を思い付き、どのように活動するか考えるようにするとともに、自分たちの活動や新聞紙の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。 ○楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養うようにする。

【題材の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・細い紙をつないだりつるしたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。 ・新聞紙に十分に慣れるとともに、並べたりつないだりするなど手や体全体の感覚を働かせ、活動を工夫してついている。	・細い紙をつないだりつるしたりしてできた形や色などを基に自分のイメージをもちながら、新聞紙の形などを基に造形的な活動を思い付き、どのように活動するか考えている。 ・自分たちの活動や新聞紙の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	つくりだす喜びを味わい楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

○本題材における【共通事項】についてのとらえ

<p>【共通事項】</p> <p>ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付くこと。</p> <p>イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。</p>
--

自分の感覚や活動を通して、細い紙を繋げたり、つるしたりするなどしてできた形や色、触った感じを基に、自分のイメージをもつ。

	活動	具体化した評価の例 【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的
1	○材との出あい ○細長い紙をつないだりつるしたりして楽しむ。 ○つないだりつるしたりしながら、素材の違いに気付いたり、いろいろなつなぎ方やつるし方を見つけたりする。	<p>知・技</p> <p>・細い紙をつないだりつるしたりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付いている。 ・細長い紙の材質の違いや重さなどに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、いろいろなつなぎ方やつるし方で工夫してついている。【観察・写真記録】</p>			
2	○つないだ紙の形や色を考えて、いろいろなつなぎ方やつるし方をさらに楽しむ。 ○活動したことをお互いに見合う	<p>思・判・表</p> <p>・細い紙をつないだりつるしたりしてできた形や色などを基に自分のイメージをもちながら、新聞紙の形などを基に造形的な活動を思い付き、どのように活動するか考えている。【観察・写真記録】</p> <p>・自分たちの活動や新聞紙の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。【観察・発言・写真記録】</p> <p>主体的</p> <p>つくりだす喜びを味わい楽しく表現する学習活動に取り組もうとしている。【観察・写真記録】</p>			

研究内容についてのふりかえり

1. 「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力を明確にしたカリキュラム・マネジメント

実際に新聞紙をつないだり、つるしたりする感覚や行為を通して、すぐにちぎれてしまう新聞紙を長くつなぐなどの、形や材質への気付きや、新聞紙がカーテンのように風にゆらめくところに顔をうずめるなど、身体全体を使って感じることの面白さに気が付いていた。次第に友だちとの協働的な活動も増え、いろいろなつなぎ方やつるし方を対話の中から見付け、試す児童が増えていった。

○本題材における3つの工夫と1つの視点（出あいの工夫、場の設定の工夫、共感的支援の工夫、小中一貫の視点）がどうだったのか

・出あいの工夫

細長い新聞紙を2本提示し、「今日はこれを使って楽しい遊びを考えよう。」と投げかけると、子どもたちから、次々にアイディアが浮かび声を上げ始めた。天井にぶら下がっている紐に気が付くと、平面的なイメージから、立体的なイメージに変わっていったように思われる。題材名を掲示するところには、やりたくてたまらないところまで気持ちが高まっており出あいの工夫としては上々であったといえる。

・場の設定の工夫

安全面と思いのままにつくる活動が両立できるよう、材料や接着道具などの配置や、活動のたびに手洗いにいかずに済むための手拭きタオルの配置場所に気を付けた。上からつるす活動では、紐が首にかからないような高さへの留意と、つるしたいときに手が届く場所まで紙テープを垂らしておくなどの工夫をした。

・共感的支援の工夫

児童が活動を進める中で、細長い紙の結び方やつるし方など、新しい組み合わせ方を見付けている様子や、お気に入りポイントやおすすめポイントなど、自分なりのイメージをもって活動している様子を見付けてはほめたり、認めたりして全体化した。友だちの話から、さらにイメージを広げ、夢中になって活動に取り組んでいく様子が見られた。

・小中一貫の視点

低学年のうちに、体全体を使って感じたことを思いのままに表現する楽しさを存分に味わってほしい。その経験が、中学年での「工夫して表すこと」、そして高学年での「効果的に表すこと」に広がっていくと考えている。中学校では、造形遊びの活動はないものの、「形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」「形や色彩の特徴を基に、対象のイメージをとらえること」という〔共通事項〕の深まりにかかわってくると考えられる。

○〔共通事項〕の捉えと、そのための手立てがどうだったのか

①形や色に気付くための手立て

・魅力的と子どもが感じる題材に出あわせること

たかが新聞紙、されど新聞紙。「やりたい。」「さわりたい。」「おもしろそう。」と期待が高まるように、題材名に入るまでの導入での出あいを丁寧に準備した。

・十分な量の新聞紙を準備して部屋の4隅に配置していたこと

まずは自分がやりたいだけ存分に新聞紙に触れ、つなぎ方やつるし方を試すことができた。十分な量の新聞紙を準備することで、失敗を恐れず、何度も挑戦することができて良かった。また、導入の中でつなぐ方法をさまざまに確認したことが、「新聞紙はちぎれてもつなげば良いんだ。」と材の特徴に目を向けることもできた。

②イメージをもつための手立て

・子どもたちの視線の先をつなぐこと

紙をつないだりつるしたりするための紙テープや机の脚などをさりげなく配置し、示すことで、視点が横方向から縦方向にも広がり、遊びを立体的なものに変えていくことができた。

・共感的支援と対話的な学び

最初は一人ひとりが夢中になって新聞紙をつなげていたが、次第に「もっと長くしたいんだけど、持っていてくれない?」「先生に見てほしいんだけど。」と教員に声をかけてくるようになった。近くで活動している友だちとつながるように活動を共有していくことで、「ブランコみたいだね。」「こっちにもつなごうよ。」「なんだかジャングルアスレみたいになってきたね。」と声をかけ合いながらの活動に変わり、さらにイメージをひろげることができた。

2. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善における子どもの変容

活動に困り、動けなくなる子どもは一人もおらず、みな、導入での期待の高まりから、まずはつないだりつるしたり、折ったり、重ねたりと新聞紙に触れあっていた。その後、友だちとのつながりから、協働的な活動に進む子、自分のイメージに向かって黙々と活動する子、友だちがつくった場所で遊んだり、触ったりする中から、イメージを新たにもつ子など、活動の幅は細分化していたが、誰かに言われて流されて・・・という子もなく、活動が進んでいったように思う。ただし、それを言語化できるかどうかは普段の国語力によったところが大きく、一人ひとりへの聞き取りの時間は足りなかった。

活動自体の魅力とは反し、個人の集中できる時間と、集団の集中が持続する時間には隔たりがあり、要所所で声をかけたり、見せ場を作ったりはしたものの、自分の変容にまで思いを馳せたり、それをさらに言語化したりするまでには、まだまだ繰り返しの指導が必要だと感じた。

子ども一人ひとりを見つめると、それぞれの活動には、一生懸命考え、材に触れ、遊び、友だちと対話を繰り返す中で、見方や感じ方が広がっていったものが多く見られるが、それを言語化してお互いに伝えるための表現方法には課題がある。どちらかというと、友だちと「伝え合う」というよりも、「先生に聞いてほしい」の段階の子どもがまだまだ多く、活動中の対話以外の場での「聞く姿勢」に課題がある。